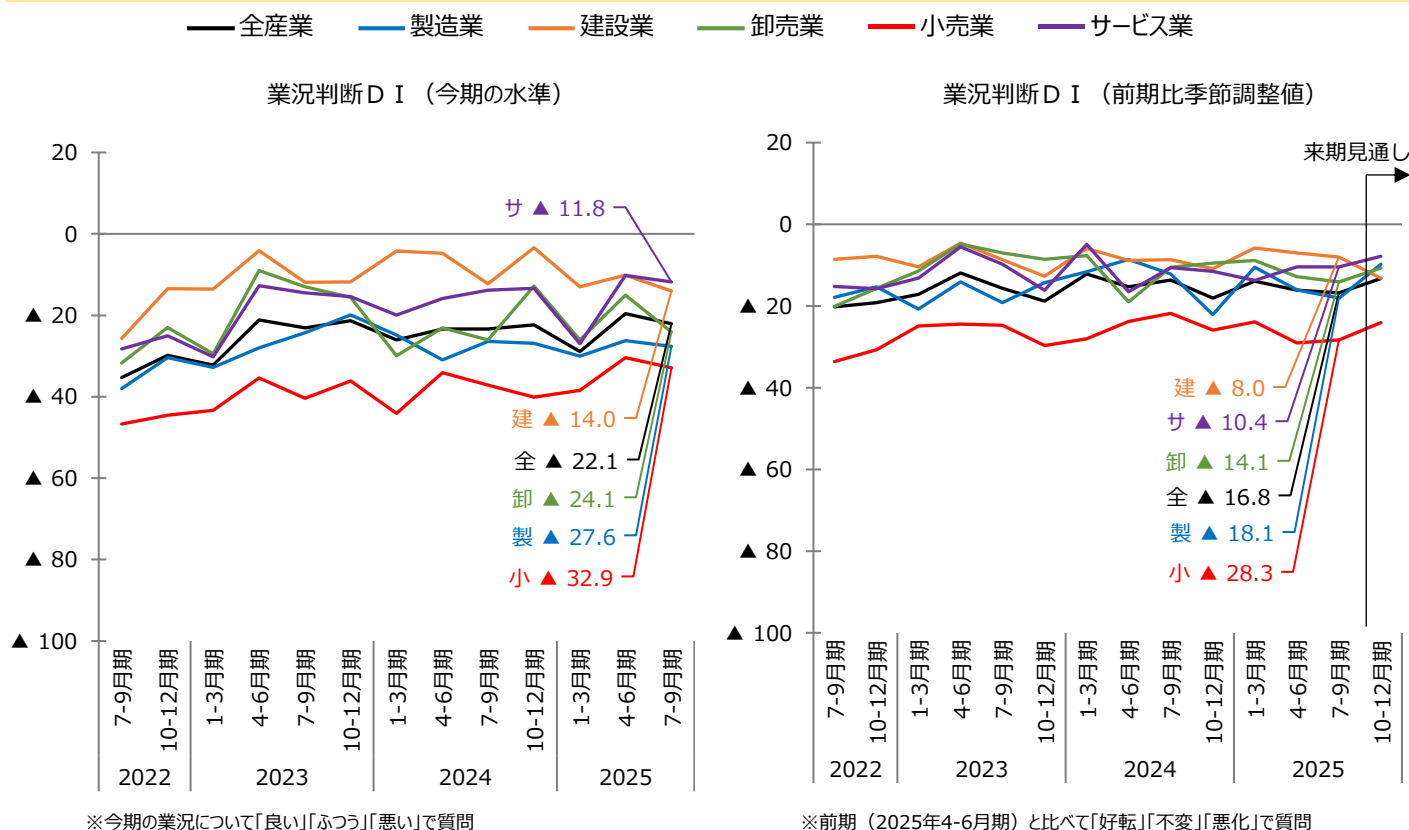


第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 四国



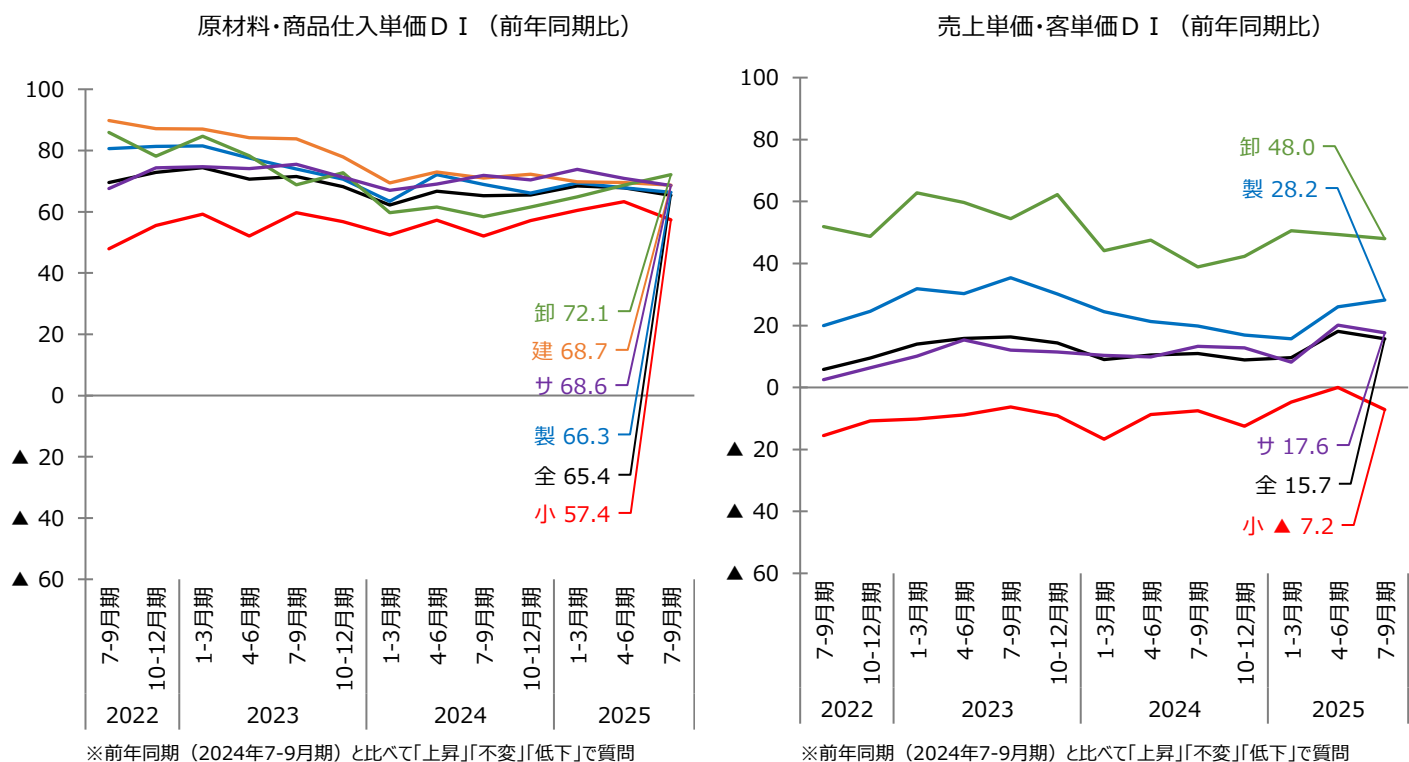
1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より2.5ポイント減の▲22.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5業種すべてで低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の65.4と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業、サービス業、製造業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の15.7と3期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、小売業、サービス業、卸売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、四国：1,292企業

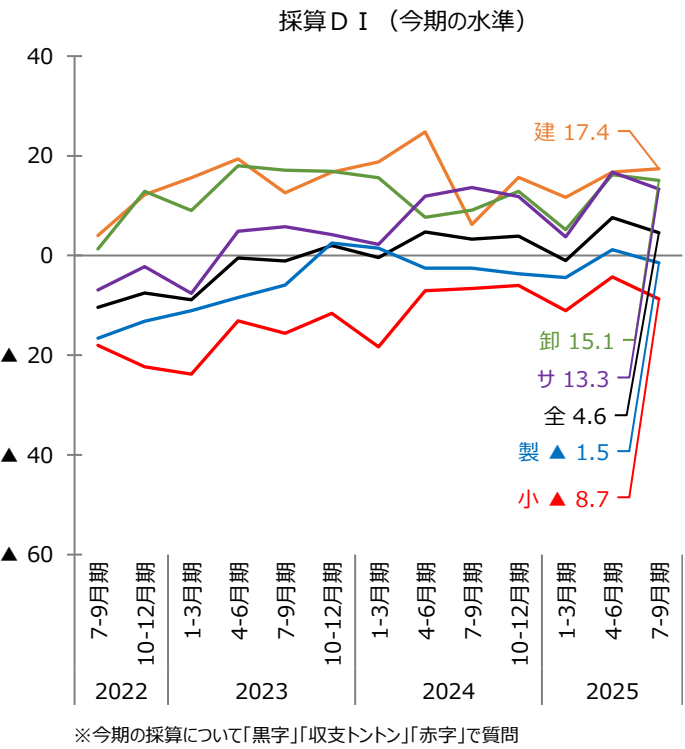
※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 四国



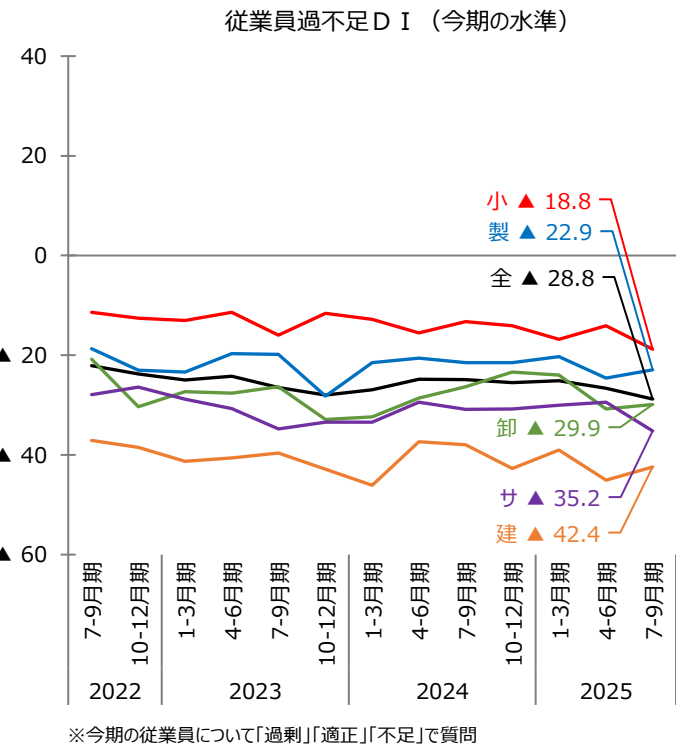
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より3.0ポイント減の4.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、小売業、サービス業、製造業、卸売業で低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.2ポイント減の▲28.8と2期連続して低下した。産業別にみると、建設業、製造業、卸売業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



5. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	設備の老朽化により故障が多く修理代が負担になっている。また、外注に出す為外注加工賃が多くなり採算が悪化している。	製造業	石工品製造業
	人的パワーが必要な業種であるため、従業員の確保難が売上の低調に直接響いている。かといって、未経験者を採用する体力はなく、経験者で年齢が適齢な都合の良い従業員はなかなかいないのが現状。	建設業	建築リフォーム工事業
	人口減少と高齢化で車輦台数が減ってきている。当面は不変であるが、将来的には下がっていくと見込まれる。	卸売業	自動車部品・附属品卸売業（中古品を除く）
	学生服は2～5月の販売がメインであり、その後いつも業況は悪くなるが、今年は6月からSNSを使い、オンラインショップにて布小物の販売に力を入れた結果、少しずつ売上が増加している。	小売業	他に分類されない織物・衣服・身の回り品
	宿泊料金の改定や物価高騰の影響等からコンスタントな宿泊者数の確保に繋がっておらず、この傾向が続くと想定している。また、悪天候などの影響でキャンセルがあったことも売上高減少の要因となっている。	サービス業	旅館、ホテル
見通し	人件費削減により経営に支障は出ていない。しかし、人件費を削減したことにより繁忙期は人手が足りず、残業時間が増加している。会社経営に余裕ができたなら体制を見直し、人手を増やすが現状は不可能。	製造業	畳製造業
	前年同期および前期に関してはほぼ横ばいで推移出来たが、来期の業況は受注見込み等の見通しが乏しいので、引合い・営業活動に取組み、受注・採算の強化を図ってきたい。	建設業	一般土木建築工事業
	ペーパーレス化の需要の停滞による売上減に加えて人件費の増加が経営を圧迫している。	卸売業	紙製品卸売業
	大変な暑さと物価高で来店客数と売上高の減少が続き、四苦八苦である。他店にはない、希少性というものを意識しながら営業を続けていく。	小売業	婦人服小売業
	宿泊人員は昨年対比で若干減少している一方、単価の改善により売上は維持している。ただし、あらゆるコストが継続的に上昇しており、採算が今後さらに悪化することを懸念している。	サービス業	旅館、ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)